

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 健康科学部 栄養学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 養成する人材像及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（1）本学科は、「食が豊かな社会と生活の源であることを認識し、人に寄り添い、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的」とし、養成する人材像にも「食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う人材」を掲げるなど、「食」を中心に据えた資質・能力を身に付ける課程を想定しているものと見受けられるが、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーには『「食」を通して』との記載がある一方で、ディプロマ・ポリシーには「食」に関する記載が見受けられず、本学科を卒業した学生が、養成する人材像に掲げる「食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う人材」に求められる資質・能力を適切に身につけたものであるのか判然としない。

（2）（1）のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないが、カリキュラム・ポリシー4に『「栄養教諭関連科目」を配置する』ことを掲げているものの、栄養教諭関連科目はいずれも自由科目であり、卒業要件や履修方法からも、必ずしも履修が必要な授業科目とはなっていないことから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を適切に修得できる教育課程を編成するための方針として妥当な内容であるか疑義がある。

（是正事項）・・ 3～7

【入学者選抜】

2. 入学者選抜の概要において示されている、各選抜方法で課す試験内容等とアドミッション・ポリシーの関係性を示した表について、「◎、○、△」の示す重要度が明らかではないが、例えば、一般選抜の試験項目のうち調査書はアドミッション・ポリシー1及びアドミッション・ポリシー3との関係性が「△」となっており、調査書でこれらのポリシーで掲げる意欲をどのように評価するのか明確でなく、本学科が掲げるアドミッション・ポリシーを適切に判定することができる試験方法が担保されているのか判然としない。このため、調査書で求める内容、「◎、○、△」の示す重要度及び試験内容等とアドミッション・ポリシーとの関係性のほか、試験の内容や方法がアドミッション・ポリシーに合致した入学者を適切に選抜できるものとなっていることについて、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・ 8～10

3. 入学選抜の方法について、「総合型選抜 専願制 (A) (B)」や「総合型選抜 併願制 (A) (B)」で説明する事前課題や試験内容には調査書は含まれていないが、各選抜方法で課す内容（事前課題、試験内容等）とアドミッション・ポリシーの関係性として示された表3には、総合型選抜に調査書が含まれており、前述の説明と齟齬があることから、適切な記載に改めること。
- (改善事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～13

【教員組織】

4. 専任教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。
- (是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～18

【施設・設備等】

5. 大学設置基準第36条第1項第1号に定める「学長室」について、提出されている校舎の平面図からは適切に備えられていることが確認できないため、当該施設を備えた校舎の平面図等の資料を改めて提出すること。
- (是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

6. 学生確保の見通しの根拠として、令和5年度から学生募集を停止する短期大学部における入学志願状況や、健康科学部栄養学科の進学意向調査の結果に基づき説明しているが、前者については、入学者が年々減少していることに加えて、受験者数が示されておらず、歩留率を考慮した場合に、65名の入学者が確保できるか必ずしも明らかではない。また、後者についても、「受験したい」「入学したい」の選択肢を選んだ者は36名に留（とど）まっていることに加え、他の調査項目とのクロス集計による説明もなされておらず、区分ごとの推計で示されている受験や入学可能性の割合についても客観的な根拠が示されていないことから、推計の妥当性も判断できない。これらのことから、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しがあるか疑義があるため、より詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠に基づき改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
- (是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～47

【設置の趣旨・目的等】

1. 養成する人材像及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 本学科は、「食が豊かな社会と生活の源であることを認識し、人に寄り添い、地域社会と協働し貢献することを教育研究の目的」とし、養成する人材像にも「食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う人材」を掲げるなど、「食」を中心に据えた資質・能力を身に付ける課程を想定しているものと見受けられるが、養成する人材像、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーには『「食」を通して』との記載がある一方で、ディプロマ・ポリシーには「食」に関する記載が見受けられず、本学科を卒業した学生が、養成する人材像に掲げる「食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う人材」に求められる資質・能力を適切に身につけたものであるのか判然としない。

(2) (1) のとおり、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーの妥当性やその整合性を判断することができないが、カリキュラム・ポリシー4に『「栄養教諭関連科目」を配置する』ことを掲げているものの、栄養教諭関連科目はいずれも自由科目であり、卒業要件や履修方法からも、必ずしも履修が必要な授業科目とはなっていないことから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を適切に修得できる教育課程を編成するための方針として妥当な内容であるか疑義がある。

(対応)

審査意見1(1)への対応についての説明は以下のとおりである。

本学が考える「食」について、建学の精神であるキリスト教教育から捉えた定義と、学問分野である栄養学から捉えた観点の両方から説明する。

まず、本学が教育の基盤としているキリスト教的人間観において、人間は「体」(Body)のみならず「心」(Mind)と霊(Spirit)の次元をも不可分にあわせ持っており、その全体が、神によって創造された尊い存在として理解されている。この人間の存在を健やかに保つため、神は自然を創り、そこから食物など、生活に必要な全てを得るようになされた(創世記1章29節)。従って人間には、自然世界を神の意志に従って治める責任(創世記2章15節)と、食を通して自らの体を健康に保ち、神との正しい関係を維持する責任が与えられている(マタイ福音書6章11節、コリントの信徒への手紙一10章31節)。その上で、人間が互いの体と心と霊を尊重し合う良い関係を築くことが求められている。それゆえ「食」は人間にとって、ただ生物が生命を維持するために栄養を摂取するという意味にとどまるものではない。食と健康という点から、体・心・霊を持った人間を総合的(ホーリスティック)にとらえ、人間存在全体の「健やかさと幸せ」(Well-Being)のために、個々人に対してどのような栄養学的支援・サポートが必要であるかを真剣に祈り考え、より良い共同体社会を築こうと実践する人材を養成することが、本学の使命である。

次に、栄養学的観点から見ると、今日の日本は世界最長寿国の一つであるが、若い世代の食生活の乱れや、生活習慣病などの増加、老年に見られる低栄養の問題など、健康を支える食のあり方が問われている。一方SDGsにより持続可能で誰一人取り残さない社会を見据え、すべての人々の人生のQOL向上をめざして、ライフステージごとにあるいは個々人の健康状態や病態に応じてどのような食生活、とりわけ栄養摂取が求められるか適切に判断し、それぞれが生き生きとした健やかな生活を実現できるように支援することが必要である。

このように、健康科学部栄養学科では、栄養と健康に関する知識・理論を確実に習得し、栄養摂取を具現化する「食」を通して地域社会に貢献する人材を育成する。以上の考えに基づき、審査意見1(1)を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを下記のとおり修正する。

【修正前：ディプロマ・ポリシー】

⑦ 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。

【修正後：ディプロマ・ポリシー】

⑦ 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。

また、審査意見1(2)への対応についての説明は以下のとおりである。

短期大学部食物栄養学科では、栄養教諭2種免許課程を設置し栄養教諭養成を続けてきた。それは、地域社会における、特に学校を中心とした教育活動における栄養教諭養成の必要性に応じたことによる。健康科学部栄養学科を設置するにあたり、栄養教諭1種免許が取得できる学科を設置するという方針を掲げ、「栄養教諭関連科目」を配置しカリキュラム・ポリシーの一つとした。ただし、全員が履修することを想定していないため、「栄養教諭関連科目」は自由科目とした。

以上のことから、審査意見で指摘された通り、ディプロマ・ポリシーとの整合性を考慮し、カリキュラム・ポリシー「④「栄養教諭関連科目」を設置する。」を削除することとする。

【修正前：カリキュラム・ポリシー】

- ④ 「栄養教諭関連科目」を設置する。
- ⑤ 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。

【修正後：カリキュラム・ポリシー】

- ④ 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。
- ⑤ 削除

以上の対応に基づき、下記のとおり「設置の趣旨等を記載した書類」を修正する。

(新旧対照表)

- ・設置の趣旨等を記載した書類(5～7ページ)

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(6) 北陸学院大学健康科学部栄養学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</p> <p>(略)</p> <p>⑦ 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、<u>「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。</u></p> <p>(7) 教育研究上の目的及び養成する人材像及びディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーの関連性について</p> <p>(略)</p> <p>④ <u>多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</u></p> <p>(略)</p> <p>(9) 北陸学院大学短期大学部食物栄養学科との違い等について</p> <p>① 人材養成の違い</p> <p>短期大学部は即戦力になることを目指して、まず専門知識を得た上で、献立作成・調理という技術を獲得することが主体であった。本学科では、各学年におけるゼミやキリスト教的人間観・自然観による人間教育、地域における活動を通じて、人間としての幅を広げ、栄養と健康に関する、より専門的な知識と高度な実践力を備えた人材養成をおこなう。</p> <p>具体的には、短期大学部のディプロマ・ポリシーには「培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。」と定めているが、大学では「栄養と健康に関する専門</p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(6) 北陸学院大学健康科学部栄養学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</p> <p>(略)</p> <p>⑦ 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。</p> <p>(7) 教育研究上の目的及び養成する人材像及びディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシーの関連性について</p> <p>(略)</p> <p>④ 「栄養教諭関連科目」を配置する。</p> <p>⑤ 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</p> <p>(略)</p> <p>(9) 北陸学院大学短期大学部食物栄養学科との違い等について</p> <p>① 人材養成の違い</p> <p>短期大学部は即戦力になることを目指して、まず専門知識を得た上で、献立作成・調理という技術を獲得することが主体であった。本学科では、各学年におけるゼミやキリスト教的人間観・自然観による人間教育、地域における活動を通じて、人間としての幅を広げ、栄養と健康に関する、より専門的な知識と高度な実践力を備えた人材養成をおこなう。</p> <p>具体的には、短期大学部のディプロマ・ポリシーには「培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。」と定めているが、大学では「栄養と健康に関する専門</p>

<p>的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。」と、短期大学部の学びから、さらに栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけ、自らの使命観（キリスト教的人間観）に基づき地域社会や他者に寄り添うことのできる人材を養成することを明確に示している。なお、取得可能な資格は、短期大学部は栄養士、本学科は管理栄養士国家試験受験資格及び栄養士である。</p>	<p>的知識及び実践力に基づき、地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。」と、短期大学部の学びから、さらに栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけ、自らの使命観（キリスト教的人間観）に基づき地域社会や他者に寄り添うことのできる人材を養成することを明確に示している。なお、取得可能な資格は、短期大学部は栄養士、本学科は管理栄養士国家試験受験資格及び栄養士である。</p>
---	--

・設置の趣旨等を記載した書類（12 ページ）

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 健康科学部栄養学科の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー） (略) <u>④ 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</u></p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 健康科学部栄養学科の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー） (略) ④ 「栄養教諭関連科目」を配置する。 ⑤ 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</p>

・設置の趣旨等を記載した書類（16、17 ページ）

新	旧
<p>(略)</p> <p>〔DP 3〕学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。 (関連CP) CP 1、CP 3</p> <p>〔DP 4〕4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。 (関連CP) CP 1、CP 3</p>	<p>(略)</p> <p>〔DP 3〕学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。 (関連CP) CP 1、CP 3、CP 4</p> <p>〔DP 4〕4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。 (関連CP) CP 1、CP 3、CP 4</p>

<p>(略)</p> <p>〔DP 6〕 現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。</p> <p>(関連CP) CP 1、CP 3</p> <p>〔DP 7〕 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。</p> <p>(関連CP) CP 1、CP 3</p> <p>(略)</p> <p>・〔CP 4〕 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</p> <p>〔CP 1～3〕 における学修成果について、各科目レベルの成績評価（学修成果の評価）として、定期試験、レポート、提出課題、取組姿勢など、複数の項目から多角的に評価を行う。</p>	<p>(略)</p> <p>〔DP 6〕 現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。</p> <p>(関連CP) CP 1、CP 3、CP 4</p> <p>〔DP 7〕 栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。</p> <p>(関連CP) CP 1、CP 3、CP 4</p> <p>(略)</p> <p>・〔CP 4〕 「栄養教諭関連科目」を配置する。</p> <p>(関連DP) DP 3、DP 4、DP 6、DP 7</p> <p>栄養教諭一種免許状取得のために、「学科専門科目」群において「栄養教諭関連科目」を配置している。</p> <p>・〔CP 5〕 多角的観点から複数の指標に基づき評価を行う。</p> <p>〔CP 1～4〕 における学修成果について、各科目レベルの成績評価（学修成果の評価）として、定期試験、レポート、提出課題、取組姿勢など、複数の項目から多角的に評価を行う。</p>
--	--

【入学者選抜】

2. 入学者選抜の概要において示されている、各選抜方法で課す試験内容等とアドミッション・ポリシーの関係性を示した表について、「◎、○、△」の示す重要度が明らかではないが、例えば、一般選抜の試験項目のうち調査書はアドミッション・ポリシー1及びアドミッション・ポリシー3との関係性が「△」となっており、調査書でこれらのポリシーで掲げる意欲をどのように評価するのか明確でなく、本学科が掲げるアドミッション・ポリシーを適切に判定することができる試験方法が担保されているのか判然としない。このため、調査書で求める内容、「◎、○、△」の示す重要度及び試験内容等とアドミッション・ポリシーとの関係性のほか、試験の内容や方法がアドミッション・ポリシーに合致した入学者を適切に選抜できるものとなっていることについて、改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見2への対応として、試験の内容や方法がアドミッション・ポリシーに合致した入学者を適切に選抜できるものとなっていることを明確にするため、下記のとおり修正する。

まず、一般選抜の書類審査における「調査書」であるが、調査書とアドミッション・ポリシー1及びアドミッション・ポリシー3との関連性を再考した結果、調査書から評価する事項、内容を整理し、アドミッション・ポリシーの1と3を次のように修正する。

【修正前】

- ① 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission (あなたの使命を実現しよう)」という精神に賛同し、本学で意欲的に学ぶ意思がある者。
- ③ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動しようという意欲を持つ者。

【修正後】

- ① 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission (あなたの使命を実現しよう)」という精神に賛同し、意欲的に学ぶ姿勢が身についている者。
- ③ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動する力が身についている者。

このように、一般選抜の試験項目における「調査書」より、アドミッション・ポリシー1及び3の評価を実施する。調査書における「総合的な学習の時間の内容・評価」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」の記載事項より、学ぶ姿勢が身についていることを評価し、また、調査書における「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」の記載事項より、とりわけ学業成績及び高等学校における部活動・ボランティア活動などの経験、成果等の記載により、行動する力が身についているかを評価することとする。部活動・ボランティア活動などへの参加状況や態度を確認することにより、学業をはじめとした学校生活に対する積極性を読み取る。また自発的に行動しようとする傾向についても読み取る。

次に、設置の趣旨等を記載した書類P.38【表3】について、当初「◎、○、△」により重要度を示すこととしていたが、評価の関連を示すこととし、「◎、○、△の順で各入試選抜においてアドミッション・ポリシーの項目で重視している点になる。」を改め、「○は、アド

ミッション・ポリシーと、各選抜及び試験項目との評価の関連を示す。」と修正する。

以上のことを踏まえて、【表3】を下記のとおり修正する。

【表3】

区分 試験項目 A P	総合型選抜				一般選抜	社会人特別選抜				編入学		
	学校推薦型選抜					調査書	共通テスト 本学学力試験又は大学入学	志望理由書	卒業証明書・履歴書	面接及び口頭試問	指定校制・一般制	
	調査書	志望理由書及び本学科で取り組みたいこと	学科専門性に関する課題	面接及び課題発表・口頭試問							社会人特別選考	
									小論文	面接及び口頭試問		
北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission (あなたの使命を実現しよう)」という精神に賛同し、意欲的に学ぶ姿勢が身についている者。		○		○	○			○		○	○	
専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。	○		○	○		○			○	○	○	
「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動する力が身についている者。			○	○	○			○		○	○	

※ ○は、アドミッション・ポリシーと、各選抜及び試験項目との評価の関連を示す。

以上の対応に基づき、下記のとおり「設置の趣旨等を記載した書類」を修正する。

(新旧対照表)

・設置の趣旨等を記載した書類 (36 ページ)

新	旧
<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>① 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission (あなたの使命を実現しよう)」という精神に賛同し、<u>意欲的に学ぶ姿勢が身についている者。</u></p>	<p>10 入学者選抜の概要 (略)</p> <p>① 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission (あなたの使命を実現しよう)」という精神に賛同し、<u>本学で意欲的に学ぶ意思がある者。</u></p>

<p>② 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。</p> <p>③ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、<u>行動する力が身につけている者。</u></p>	<p>② 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。</p> <p>③ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、<u>行動しようという意欲を持つ者。</u></p>
---	---

・設置の趣旨等を記載した書類 (38 ページ)

		新										旧											
		【表3】										【表3】											
区分 試験科目	AP	総合型選抜				一般選抜				社会人枠選抜		編入学		総合型選抜				一般選抜				社会人枠選抜	
		学校推薦型選抜										指定校制・一般制 社会人枠選抜											
		書類選抜	面接	実技	その他	書類選抜	面接	実技	その他	書類選抜	面接	小論文	面接	書類選抜	書類選抜	面接	実技	その他	書類選抜	書類選抜	面接	実技	その他
試験項目		志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)	志願理由書 短評(100文字以内)
北陸学院のスクールモットーである「Be Like Your Mission (あなたの使命を表現しよう)」という精神に賛同し、学業的に学ぶ姿勢が身につけている者。		○		○	○			○			○	○	○	○					○				○
専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。	○		○	○		○				○	○	○	○										○
「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動する力が身につけている者。				○	○					○		○	○										○

※ ○は、アドミッション・ポリシーと、各選抜及び試験項目との評価の関連を示す。

試験区分 試験科目	総合型選抜				一般選抜				社会人枠選抜			
	学校推薦型選抜											
	書類選抜	面接	実技	その他	書類選抜	面接	実技	その他	書類選抜	書類選抜	面接	実技
A2		◎		◎	△			◎				◎
北陸学院のスクールモットーである「Be Like Your Mission (あなたの使命を表現しよう)」という精神に賛同し、学業的に学ぶ姿勢が身につけている者。	○		○	○				◎				◎
専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。			◎	◎	△			◎				◎
「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動しようという意欲を持つ者。				◎				◎				◎

※ ◎、○、△の順で各入試選抜においてアドミッション・ポリシーの項目で重視している点になる。

【入学者選抜】

3. 入学選抜の方法について、「総合型選抜 専願制 (A) (B)」や「総合型選抜 併願制 (A) (B)」で説明する事前課題や試験内容には調査書は含まれていないが、各選抜方法で課す内容（事前課題、試験内容等）とアドミッション・ポリシーの関係性として示された表3には、総合型選抜に調査書が含まれており、前述の説明と齟齬があることから、適切な記載に改めること。

(対応)

審査意見3を踏まえ、「入学選抜の方法」の記載と、各選抜方法で課す内容（事前課題・試験内容等）とアドミッション・ポリシーの関連を示す【表3】に齟齬があることから、「入学選抜の方法」の①～⑩の記載を、下記の通りに改める。また、【表3】に編入学試験を追記し、修正する。

(新旧対照表)

・設置の趣旨等を記載した書類 (36～37 ページ)

新	旧
<p>(2) 入学選抜の方法</p> <p>本学の入学者選抜区分は、高等学校の進路指導・方法に合わせ多様な制度を設けている。選抜基準については、学力3要素を前述どおりの各評価から総合的に判定し選抜する。</p> <p>① 総合型選抜 専願制 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none">書類審査：調査書事前課題：1.志望理由書及び本学で取り組みたいこと 2.学科専門性に関する課題面接審査：面接及び課題発表 <p>② 総合型選抜 併願制 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none">書類審査：調査書事前課題：1.志望理由書及び本学で取り組みたいこと 2.学科専門性に関する課題面接審査：面接及び口頭試問	<p>(2) 入学選抜の方法</p> <p>本学の入学者選抜区分は、高等学校の進路指導・方法に合わせ多様な制度を設けている。選抜基準については、学力3要素を前述どおりの各評価から総合的に判定し選抜する。</p> <p>① 総合型選抜 専願制 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none">事前課題：志望理由書、学科専門性に関する課題試験内容：面接及び課題発表 <p>② 総合型選抜 併願制 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none">事前課題：志望理由書、学科専門性に関する課題試験内容：面接及び口頭試問

<p>③ 学校推薦型選抜 指定校制</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類審査：調査書 事前課題：<u>1.志望理由書及び本学で取り組みたいこと</u> <u>2.学科専門性に関する課題</u> 面接審査：面接及び口頭試問 <p>④ 学校推薦型選抜 公募制</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類審査：調査書 事前課題：<u>1.志望理由書及び本学で取り組みたいこと</u> <u>2.学科専門性に関する課題</u> 面接審査：面接及び口頭試問 <p>⑤ 一般選抜一般制〔第Ⅰ期〕〔第Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類審査：調査書 学力試験：筆記試験 <p>⑥ 一般選抜大学入学共通テスト利用制 (A) (B) (C)</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類審査：調査書 学力試験：大学入学共通テスト <p>⑦ 社会人特別選考 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 書類審査：志望理由書、卒業証明書・履歴書 面接審査：面接及び口頭試問 <p>本学における社会人の定義は、入学時に満 21 歳以上で 1 年程度の就業経験のある者が対象となる。</p> <p>なお、入学を許可された者が本学に入学前に他の大学等で修得した単位の認定基準については、学科教務担当が他大学等で修得した単位科目を確認した上で教授会で検討し、本学の配置科目と個別に既修得単位の読み替えを行う。</p> <p>認定する単位数の上限は 60 単位以内とする。学科教務担当は、当該学生の単位読</p>	<p>③ 学校推薦型選抜 指定校制</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題：志望理由書、学科専門性に関する課題 試験内容：面接及び口頭試問 <p>④ 学校推薦型選抜 公募制</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題：志望理由書、学科専門性に関する課題 試験内容：面接及び口頭試問 <p>⑤ 一般選抜一般制〔第Ⅰ期〕〔第Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題：調査書 試験内容：学力試験 <p>⑥ 一般選抜大学入学共通テスト利用制 (A) (B) (C)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題：調査書 試験内容：大学入学共通テスト <p>⑦ 社会人特別選考 (A) (B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題：志望理由書、卒業証明書・履歴書 試験内容：面接 <p>本学における社会人の定義は、入学時に満 21 歳以上で 1 年程度の就業経験のある者が対象となる。</p> <p>なお、入学を許可された者が本学に入学前に他の大学等で修得した単位の認定基準については、学科教務担当が他大学等で修得した単位科目を確認した上で教授会で検討し、本学の配置科目と個別に既修得単位の読み替えを行う。</p> <p>認定する単位数の上限は 60 単位以内とする。学科教務担当は、当該学生の単</p>
--	--

<p>替一覧を作成し、教学・学生支援センター及び教授会並びに大学評議会に諮り単位認定を行う。</p> <p>⑧ 編入学試験〔指定校制、北陸学院大学短期大学部生対象〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学力試験</u>：小論文 ・ <u>面接審査</u>：面接及び口頭試問 <p>⑨ 編入学試験〔一般制Ⅰ・Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学力試験</u>：小論文 ・ <u>面接審査</u>：面接及び口頭試問 <p>⑩ 編入学試験〔社会人特別選抜Ⅰ・Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学力試験</u>：小論文 ・ <u>面接審査</u>：面接及び口頭試問 	<p>位読替一覧を作成し、教学・学生支援センター及び教授会並びに大学評議会に諮り単位認定を行う。</p> <p>⑧ 編入学試験〔指定校制、北陸学院大学短期大学部生対象〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題：なし ・ 試験内容：面接、小論文 <p>⑨ 編入学試験〔一般制Ⅰ・Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題：なし ・ 試験内容：面接、小論文 <p>⑩ 編入学試験〔社会人特別選抜Ⅰ・Ⅱ期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題：なし ・ 試験内容：面接、小論文
--	---

(是正事項) 健康科学部 栄養学科

【教員組織】

4. 専任教員の年齢構成が著しく高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にするとともに、教員配置の適正化を図ること。

(対応)

新学部は短期大学部食物栄養学科を改組し、教員を新規採用して開設する学科のため、十分な教育研究実績を持つ教員を配置したことから、完成年度における60歳以上の年齢構成比が75%と高くなっている。しかし経験豊富な教員は、本学部が目標とする充実した教育の実現には不可欠となっている。併せて、若手教員との授業運営や共同研究により、若手教員の教育研究業績の積み上げ、能力向上にも非常に有効となる。

なお、学校法人北陸学院における定年は満65歳であり、これを超える専任教員は開設時において5名、完成年度時に8名となるが特別に定めるときには再任用することができることとしている。

【表4】健康科学部栄養学科専任教員年齢構成表（完成年度・2026（令和8）年度）

職位・年齢	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70歳以上	小計（人）
教授			1		3	4	8
准教授					1		1
講師			2	1			3
助教							0
小計	0	0	3	1	4	4	12
構成比率	0.0%	0.0%	25.0%	8.3%	33.3%	33.3%	

年齢構成是正への具体的な対応として、「将来計画委員会」を立ち上げて採用計画を練り、開設2年目から公募を開始する。完成年度後の教員組織の計画について、定年を超えた教員の補充に関して、2032（令和14）年度完了として、次のとおり30～50歳代の若手教員を含む後任の補充計画を策定している。

【表5】

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A（教授79歳） 主な担当：「応用栄養学Ⅰ」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を持つ30～50歳代で「応用栄養学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。

教員 B (教授 78 歳) 主な担当：「栄養教育論 I」	令和 9 年度	修士もしくは博士の学位を持つ 30～50 歳代で「栄養教育論」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 C (教授 77 歳) 主な担当：「健康管理概論」	令和 9 年度	修士もしくは博士の学位を持つ 30～50 歳代で「調理」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 D (教授 72 歳) 主な担当：「医学一般 I」	令和 9 年度	修士もしくは博士の学位を持つ 40～50 歳代で「医学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 E (教授 68 歳) 主な担当：「食品学 I」	令和 12 年度	修士もしくは博士の学位を持つ 40～50 歳代で「食品学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 F (教授 67 歳) 主な担当：「臨床栄養学 I」	令和 13 年度	修士もしくは博士の学位を持つ 40～50 歳代で「臨床栄養学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 G (教授 67 歳) 主な担当：「生化学 I」	令和 13 年度	定年後の再任用を予定している。修士もしくは博士の学位を持つ 40～50 歳代で「生化学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員 H (教授 66 歳) 主な担当：「給食経営管理論 I」	令和 14 年度	定年後の再任用を予定している。修士もしくは博士の学位を持つ 30～40 歳代で「給食経営管理論」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。

また、開設から完成年度までの研究活動・研究業績を踏まえ、完成年度後講師 3 名の准教授昇格が想定されている。この昇格と先に述べた後任の補充計画を反映した、2032 (令和 14) 年度における年齢構成は下表のとおりであり、年齢構成が高齢に偏らず、教育研究の継続に支障のない教員組織とする計画である。

【表6】健康科学部栄養学科専任教員年齢構成表（2032（令和14）年度）

職位・年齢	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70歳以上	小計（人）
教授			2		3		5
准教授		2	1	1	1		5
講師							0
助教	2						2
小計	2	2	3	1	4	0	12
構成比率	16.7%	16.7%	25.0%	8.3%	33.3%	0.0%	

（新旧対照表）

・設置の趣旨等を記載した書類（41ページ）

新	旧
<p>11 教員組織の編制の考え方及び特色（略）</p> <p>（4）専任教員の年齢構成</p> <p>健康科学部栄養学科の専任教員12人の年齢構成は、教授職は8人、そのうち、70代が3人、60代が4人、40代が1人となっている。准教授は1人であり60代である。講師は3人で50代が3人となっている。</p> <p>「学校法人北陸学院 就業規則」【資料19】では、教育職員の定年を満65歳と規定し、定年に達した日の属する年度末に退職となる。ただし、「北陸学院大学再任教員に関する規程」【資料20】により、再雇用の上で、「教育上、特別な事情がある場合には、大学及び短期大学部の教員に限り、期間を延長することがある。」旨を規定している。</p> <p>なお、今回新たに採用する教員において、採用時にすでに本学の就業規則に定める定年を超えている者及び完成年度までに定年を迎える者については、新たに制定した「北陸学院大学健康科学部の設置に伴い新たに採用となった教員の定年に係る定年退職の取扱に関する規程」【資料21】を適用し、同規程において「採用時に既に満</p>	<p>11 教員組織の編制の考え方及び特色（略）</p> <p>（4）専任教員の年齢構成</p> <p>健康科学部管理栄養学科の専任教員12人の年齢構成は、教授職は8人、そのうち、70代が3人、60代が4人、40代が1人となっている。准教授は1人であり60代である。講師は3人で50代が3人となっている。</p> <p>「学校法人北陸学院 就業規則」【資料19】では、教育職員の定年を満65歳と規定し、定年に達した日の属する年度末に退職となる。ただし、「北陸学院大学再任教員に関する規程」【資料20】により、再雇用の上で、「教育上、特別な事情がある場合には、大学及び短期大学部の教員に限り、期間を延長することがある。」旨を規定している。</p> <p>なお、今回新たに採用する教員において、採用時にすでに本学の就業規則に定める定年を超えている者及び完成年度までに定年を迎える者については、新たに制定した「北陸学院大学健康科学部の設置に伴い新たに採用となった教員の定年に係る定年退職の取扱に関する規程」【資料21】を適用</p>

65歳に達している教員及び健康科学部完成年次までに満65歳に達した教員については、健康科学部完成年次である2026（令和8）年度末を退職年とする。」としている。

新学部は短期大学部食物栄養学科を改組し、教員を新規採用して開設する学科のため、十分な教育研究実績を持つ教員を配置したことから、完成年度における60歳以上の年齢構成比が75%と高くなっている。しかし経験豊富な教員は、本学部が目標とする充実した教育の実現には不可欠であり、若手教員との授業運営や共同研究により、若手教員の教育研究業績の積み上げ、能力向上にも非常に有効となる。

なお、完成年度における教員組織の年齢構成は下記の表のとおりである。

【表4】健康科学部栄養学科専任教員年齢構成表（完成年度・2026（令和8）年度）

職位・年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70歳以上	小計（人）
教授			1		3	4	8
准教授					1		1
講師			2	1			3
助教							0
小計	0	0	3	1	4	4	12
構成比率	0.0%	0.0%	25.0%	8.3%	33.3%	33.3%	

完成年度後は公募を原則としつつ公募以外の方法とあわせて、教員組織の若返りを図れるよう、採用人事には十分に留意する。

年齢構成是正への具体的な対応として、「将来計画委員会」を立ち上げて採用計画を練り、開設2年目から公募を開始する。定年を超えた教員の補充に関して、2032（令和14）年度完了として、次のとおり30～50歳代の若手教員を含む後任の補充計画を策定している。具体的な採用計画は下記のとおりであり、分野、職位により適切な教員配置を行っていく。

し、同規程において「採用時に既に満65歳に達している教員及び健康科学部完成年次までに満65歳に達した教員については、健康科学部完成年次である2026（令和8）年度末を退職年とする。」としている。

新学部は、管理栄養士養成課程の設置でもあり、教育や研究の実績のある教員招聘に比重を置くこととなった。その為、高齢の教員が多くなっているが、完成年度後は公募を原則としつつ公募以外の方法とあわせて、教員組織の若返りを図れるよう、採用人事には十分に留意する。

具体的には、完成年度後、60代の教員4名を再任用規程により70歳まで再任する予定である。完成年度後の令和8（2026）年度に医学分野、調理学分野、応用栄養学分野、栄養教育論分野、公衆栄養学分野の4人の教員が退職することを踏まえ、現職の講師が担当している科目を除いた、主要な科目である医学分野、応用栄養学分野、栄養教育論分野、公衆栄養分野については准教授又は教授を採用する。また、本学では、退職予定者の退職年度の前年度より引継ぎ等を含めた採用を理事会で認めており、開設2年目より同分野の採用を公募する予定である。

特に50代以下の教員には、教育研究業績の積み上げによる准教授から教授へ、講師から准教授へと、昇任を積極的に促す。学科としての教育・研究の継続に支障をきたさないよう計画的な教員の採用、教員配置を行っていく。

【表5】

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A (教授79歳) 主な担当：「応用栄養学Ⅰ」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を持つ30～50歳代で「応用栄養学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員B (教授78歳) 主な担当：「栄養教育論Ⅰ」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を持つ30～50歳代で「栄養教育論」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員C (教授77歳) 主な担当：「健康管理概論」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を持つ30～50歳代で「臨床」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員D (教授72歳) 主な担当：「医学一般Ⅰ」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を持つ40～50歳代で「医学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員E (教授68歳) 主な担当：「食品学Ⅰ」	令和12年度	修士もしくは博士の学位を持つ40～50歳代で「食品学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員F (教授67歳) 主な担当：「臨床栄養学Ⅰ」	令和13年度	修士もしくは博士の学位を持つ40～50歳代で「臨床栄養学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員G (教授67歳) 主な担当：「生化学Ⅰ」	令和13年度	定年後の再任用を予定している。修士もしくは博士の学位を持つ40～50歳代で「生化学」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。
教員H (教授66歳) 主な担当：「給食経営管理論Ⅰ」	令和14年度	定年後の再任用を予定している。修士もしくは博士の学位を持つ30～40歳代で「給食経営管理論」を専門分野とし、教授または准教授レベルの教育研究業績のある者。

また、開設から完成年度までの研究活動・研究業績を踏まえ、完成年度後講師3名の准教授昇格が想定されている。この昇格と先に述べた後任の補充計画を反映した、令和14年度における年齢構成は下表のとおりであり、年齢構成が高齢に偏らず、教育研究の継続に支障のない教員組織とする計画である。

【表6】健康科学部栄養学科専任教員年齢構成表（2032（令和14）年度）

職位・年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70歳以上	小計（人）
教授			2		3		5
准教授		2	1	1	1		5
講師							0
助教	2						2
小計	2	2	3	1	4	0	12
構成比率	16.7%	16.7%	25.0%	8.3%	33.3%	0.0%	

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

6. 学生確保の見通しの根拠として、令和5年度から学生募集を停止する短期大学部における入学志願状況や、健康科学部栄養学科の進学意向調査の結果に基づき説明しているが、前者については、入学者が年々減少していることに加えて、受験者数が示されておらず、歩留率を考慮した場合に、65名の入学者が確保できるか必ずしも明らかではない。また、後者についても、「受験したい」「入学したい」の選択肢を選んだ者は36名に留(とど)まっていることに加え、他の調査項目とのクロス集計による説明もなされておらず、区分ごとの推計で示されている受験や入学可能性の割合についても客観的な根拠が示されていないことから、推計の妥当性も判断できない。これらのことから、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる見通しがあるか疑義があるため、より詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠に基づき改めて説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見6への対応として、学生確保の見通しについて、詳細かつ適切な分析をした結果やその他適切な根拠に基づき、以下のとおり改めて説明する。

まず、短期大学部食物栄養学科における入学志願状況について、「受験者数」、「歩留率」を明記するとともに、入学者数の減少について分析し説明を加えた。全国的にも短期大学の入学定員未充足率は増加傾向にある一方で、石川県内の管理栄養士課程を有する大学では志願倍率が3.0倍を超えており、同分野の四年制大学として一定のニーズがある。本学の既設の短期大学部の実績と歴史より、十分な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

次に、想定される競合大学として3つの大学を選定して説明しているが、これは、本学のこれまでの入学者、入学希望者は、石川県、富山県、福井県、新潟県で97.5%を占めていることから、それぞれの県に開設されている同分野で類似の教育内容を有する私立大学を競合大学としたものである。

進学意向調査結果から想定される、健康科学部栄養学科に受験する可能性および入学する可能性のある学生数について、その根拠となるデータを追加し、より詳細かつ適切な分析をした結果について説明を追加した。

本学が毎年新入生に対して行っているアンケート項目のうち『人間総合学部入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期』の結果より、志望度に関わらず、高校2年生の中頃ですでに本学への受験を決めていた割合は、1割に満たなかった。そこで今回、本学の併設校である北陸学院高等学校の3年生への再調査と、オープンキャンパス参加者(2022(令和4)年6月19日実施)への追加調査を実施した。

これらの結果を踏まえ、アンケート回答者を「受験したい/受験を検討する」「入学したい/併願先の結果によっては入学したい」の組み合わせにより4つの区分に分けた。この4つの区分を、「パターン1:受験したい(受験意向が強い層)」と「パターン2:受験を検討する(受験意向が弱い層)」の2パターンに分けて考えることとし、入学意欲の違いを踏ま

えて試算を行うこととした。パターン1では、人間総合学部と短期大学部食物栄養学科の過去5年間の歩留率を用い、推計を行った。その結果、健康科学部栄養学科を受験すると回答した「受験意向が強い層」において、定員である65人を満たす66人～69人の入学希望者が見込まれる結果となった。一方、パターン2である「受験を検討する(受験意向が弱い層)」においても、過去5年間の本学のオープンキャンパス参加者からの受験者割合を基に推計を行った結果、4人の入学希望者がいることとなり、この中に実際に本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。今後更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努め、定員の充足につなげていく。

このように、本学を取り巻く志願状況は安定的であり、また進学意向調査の結果による分析からも、健康科学部栄養学科において65名の入学定員を充足することは十分に可能であると考えている。

以上の対応に基づき、下記のとおり「学生確保の見通し等を記載した書類」を修正する。

(新旧対照表)

・学生確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況 (略) (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>① 健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の栄養学科の最近5年間の入学志願状況等</p> <p>健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員80人に対して、平均志願者数は90人、<u>平均受験者数は89人</u>、平均入学者数は63人、<u>平均入学定員充足率は73.3%</u>、<u>平均歩留まり率は71.1%</u>となっており、【表1】昨今の18歳人口の減少期及び四年制大学志向の強まりにより志願者の減少が続いていることから、令和4(2022)年度より入学定員を80人より60人に変更することにした。<u>日本私立学校振興・共済事業団が公表している「私立大学・短期大学等入学志願</u></p>	<p>I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況 (略) (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要</p> <p>① 健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の栄養学科の最近5年間の入学志願状況等</p> <p>健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近5年間の入学志願状況等は、入学定員80人に対して、平均志願者数は90人、平均入学者数は63人、平均入学定員充足率は73.3%となっており【表1】、昨今の18歳人口の減少期及び四年制大学志向の強まりにより志願者の減少が続いていることから、令和4(2022)年度より入学定員を80人より60人に変更することにした。</p>

動向」によれば、短期大学の令和3

(2021)年度の入学定員充足率は82.56%であり、令和2(2020)年度より4.75ポイント減少している。集計学校数286校中、239校の83.6%が入学定員未充足という結果である。〈参考資料1〉家政系の学科においては、令和3(2021)年度52.7%が入学定員充足率80%未満であり、短期大学の入学定員未充足率は増加傾向にある。〈参考資料2〉一方で、石川県内に唯一の管理栄養士課程を有する大学では志願倍率が3.0倍を超えており、同分野として四年制大学として一定のニーズがあること、また、管理栄養士養成課程を有する大学は石川県に1大学、福井県に1大学、富山県には存在しない状況であること、本学の既設の短期大学部の実績と歴史より、十分な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表1】最近5年間の短期大学部食物栄養学科の入学志願状況

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	95	95	80	80	80	86
志願者(人)	110	84	84	91	81	90
受験者(人)	109	83	83	90	81	89
合格者(人)	108	83	83	90	79	89
入学者(人)	75	62	67	61	50	63
入定充足率(%)	78.9	65.3	83.8	76.3	62.5	73.3
歩留率(%)	69.4	74.7	80.7	67.8	63.3	71.1

〈参考資料1〉短期大学の概況 1.志願者数等の増減状況

一方で、石川県内に唯一の管理栄養士課程を有する大学では志願倍率が3.0倍を超えており、同分野として四年制大学として一定のニーズがあること、また、管理栄養士養成課程を有する大学は石川県に1大学、福井県に1大学、富山県には存在しない状況であること、本学の既設の短期大学部の実績と歴史より、十分な学生確保の見通しがあるものと考えられる。

【表1】最近5年間の短期大学部食物栄養学科の入学志願状況

入学年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	平均
定員(人)	95	95	80	80	80	86
志願者(人)	110	84	84	91	81	90
合格者(人)	108	83	83	90	79	89
入学者(人)	75	62	67	61	50	63
入定充足率(%)	78.9	65.3	83.8	76.3	62.5	73.3

	R 3 年度	R 2 年度	増 減
集 計 学 校 数	286 校	291 校	△ 5 校
入 学 定 員	52,242 人	53,717 人	△ 1,475 人 (△2.7%)
志 願 者 数	60,363 人	70,019 人	△ 9,656 人 (△13.8%)
受 験 者 数	58,331 人	67,796 人	△ 9,465 人 (△14.0%)
合 格 者 数	53,452 人	57,871 人	△ 4,419 人 (△7.6%)
入 学 者 数	43,132 人	46,901 人	△ 3,769 人 (△8.0%)
志 願 倍 率	1.16 倍	1.3 倍	△ 0.14 倍(△)
合 格 率	91.64 %	85.36 %	△ 6.28 倍(△)
歩 留 率	80.69 %	81.04 %	△ 0.35 倍(△)
入 学 定 員 充 足 率	82.56 %	87.31 %	△ 4.75 倍(△)
入 学 定 員 充 足 率	239 校	215 校	24 校
100%未達の学校数 (83.6 %)		(73.9 %)	(9.7 倍(△))

〈参考資料 2〉 学科系統別・入学定員充足率の動向 (短期大学) 家政系

年度	H29	H30	R元	R2	R3
入学定員充足率	% 87.01	% 83.67	% 80.75	% 83.35	% 80.72
120%以上	学科 12	学科 2	学科 2	学科 7	学科 4
110%以上120%未満	5	9	9	1	7
100%以上110%未満	19	17	13	19	13
90%以上100%未満	16	21	16	17	13
80%以上90%未満	20	16	16	14	16
70%以上80%未満	26	17	22	24	24
70%未満	21	35	37	29	35
合計	119	117	115	111	112
100%以上の割合	% 30.3	% 23.9	% 20.9	% 24.3	% 21.4
80%以上100%未満の割合	30.3	31.6	27.8	27.9	25.9
80%未満の割合	39.5	44.4	51.3	47.7	52.7

〈参考資料 1〉 及び 〈参考資料 2〉 は、「日本私立学校振興・共済事業団 令和 3 (2021) 年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」より抜粋

(略)

⑤ 想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況

栄養学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科は令和 3 (2021) 年 4 月現在、金沢学院大学栄養学部栄養学科 (入学定員 80 人、金沢市内)、仁愛大学人間生活学部健康栄養学科 (入学定員 75 人、越前市内)、新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科 (入学定員 40 人、新潟市内) である。この 3 大学を競合大学とする理由は、前述の、②石川県、富山県、福井県、新潟県の高등학교及び中学校の在籍者数で示した【表 2】直近 5 年間の人間総合学部 県別新入生数でも述べたとおり、本学のこれまでの入学者、入学志願者は、石

(略)

⑤ 想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況

栄養学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科は令和 3 (2021) 年 4 月現在、金沢学院大学栄養学部栄養学科 (入学定員 80 人、金沢市内)、仁愛大学人間生活学部健康栄養学科 (入学定員 75 人、越前市内)、新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科 (入学定員 40 人、新潟市内) で、

3 大学が公表している入試方式の集計値に

<p>川県、富山県、福井県、新潟県で5年間平均では、97.5%を占めていることから、それぞれの県に開設されている同分野で類似の教育内容を有する、私立大学を競合大学とした。この3大学が公表している入試方式の集計値による最近3年間の平均の志願者又は受験者状況をみると、募集人員195人に対して志願者又は受験者数646人、志願倍率3.31倍、入学定員充足率は97.5%となっており、安定的な入学志願状況等を維持している。【表8】</p>	<p>よる最近3年間の平均の志願者又は受験者状況をみると、募集人員195人に対して志願者又は受験者数646人、志願倍率3.31倍、入学定員充足率は97.5%となっており、安定的な入学志願状況等を維持している。【表8】</p>
<p>(略)</p>	<p>(略)</p>
<p>⑥ 専門の調査機関による進学意向調査結果</p>	<p>⑥ 専門の調査機関による進学意向調査結果</p>
<p>健康科学部の栄養学科の母体となる既設の短期大学部食物栄養学科の最近における志願状況や就職状況を踏まえるとともに、石川県、富山県、福井県、新潟県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、競合が想定される学科等の受験者動向などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、健康科学部の栄養学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、石川県をはじめとする周辺地域に所在する高等学校、及び本学の重要な教育方針であるキリスト教教育を理解しているキリスト教主義学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。</p>	<p>健康科学部の栄養学科の母体となる既設の短期大学部食物栄養学科の最近における志願状況や就職状況を踏まえるとともに、石川県、富山県、福井県、新潟県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、競合が想定される学科等の受験者動向などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものと考えられるが、健康科学部の栄養学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、石川県をはじめとする周辺地域に所在する高等学校、及び本学の重要な教育方針であるキリスト教教育を理解しているキリスト教主義学校の2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。</p>
<p>なお、キリスト教学校教育同盟には毎年、指定校として指定人数およびキリスト教学校教育同盟向け奨学制度を案内しており、受験及び入学者の実績もあることからアンケートの実施対象校とした。</p>	<p>なお、キリスト教学校教育同盟には毎年、指定校として指定人数およびキリスト教学校教育同盟向け奨学制度を案内しており、受験及び入学者の実績もあることからアンケートの実施対象校とした。</p>
<p>【資料1】北陸学院大学における新学部設</p>	<p>その結果、北陸学院大学の健康科学部の栄養学科に「入学したい」と回答した者は108人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した者は401人であり、栄養学科の入学定員65人を超える入学希望者がいると考える。</p>

置に関する高校生アンケート調査結果報告書

⑦ 高校生アンケート調査結果の対象者、実施時期、回答者数について

新学部設置に関する高校生アンケートについて、下記の3種類の集計結果を順に示す。

ア.【資料1】による、高校生アンケート調査

対象者：北陸地域（石川県、富山県、福井県）、新潟県に所在する高等学校及び、キリスト教学校教育同盟加盟校の高等学校2年生

実施時期：令和3（2021）年8月～9月

回答者数（有効回答数）：8,522人

イ. 北陸学院高等学校への再アンケート調査

対象者：北陸学院高等学校3年生

実施時期：令和4（2022）年6月

回答者数（有効回答数）：324人

ウ. オープンキャンパス参加者（健康科学部への参加者）へのアンケート調査

対象者：オープンキャンパス参加者のうち、3年生（ア及びイの重複者でない者）

実施時期：令和4（2022）年6月19日（日）

回答者数（有効回答数）：20人

⑧ 【資料1】による高校生アンケート調査結果アについて

令和3（2021）年8月～9月に実施し、回収校数は78校で、回答者数（有効回答数）は、8,522人であった。このうち、高

【資料1】北陸学院大学における新学部設置に関する高校生アンケート調査結果報告書

しかし、これらの回答者の中には、高校卒業後の希望進路が大学以外の者が含まれていたり、進学を希望する専門分野として栄養学科とは異なる専門分野を回答している者も含まれている。また、栄養学科の受験について「受験しない」と回答している者もいる。

そこで、高校卒業後の進路として「大学進学」、進学分野「家政学関係」、入学したい学部学科を「健康科学部栄養学科」と回答した回答者に限定し、本学人間総合学部の入学者に関するデータを踏まえ、入学希望者数を試算する。

入学希望者数を試算するうえで、高校生向けアンケートの結果を以下の表9の4つに区分した。

【表9】高校生アンケート 区分表

前提条件	問2 「大学進学」を選択 問3 「家政学」を選択 問5（2）「健康科学部栄養学科に入学希望」を選択	回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	36人
区分2	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「入学したい」を選択	15人
区分3	問4 「受験したい」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	46人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5（1）「併願先の結果によっては入学したい」を選択	32人

注）問2：高校卒業後の進路、問3：進学分野、問5（2）：入学希望の学科
問4：健康科学部栄養学科の受験意向、問5（1）：合格の場合の入学意向

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分を3パターンで推計する根拠及び理由を以下に示す。

「区分1」は栄養学科を第1希望と考えている可能性が高く、入学希望者と考えられる。

「推計1」「推計2」「推計3」

100%が受験し、そのうち100%が入

校卒業後に大学進学を希望する者（以下、「大学進学希望者」という。）は 5,631 人（66.1%）である。【表 9】

【表 9】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
回答者 全体	5,631 (66.1%)	410 (4.8%)	1,050 (12.8%)	1,173 (13.8%)	195 (2.3%)	63 (0.7%)	8,522 (100.0%)

注) 上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）>

>

進学を希望する分野について、大学進学希望者 5,631 人のうち第1希望として「家政学関係」と回答したのは 277 人（4.9%）、第2希望として「家政学関係」と回答したのは 452 人（8.0%）であり、合計すると 729 人（12.9%）の大学進学希望者が「家政学関係」への進学を希望している。【表 10】

【表 10】 大学進学希望者の進学希望分野（第1希望、第2希望）

	1 家政学 関係	2 社会科 学関係	3 教育学・ 保健学関 係	4 人文科 学関係	5 理学・工 学・農学 関係	6 保健系 工学関 係	7 医学・歯 学・薬学 関係	8 芸術学 関係	9 その他	不明	合計
第1希望	277 (4.9)	1,301 (23.1)	569 (10.1)	906 (16.3)	1,176 (20.9)	753 (13.4)	596 (10.6)	222 (3.9)	198 (3.5)	43 (0.8)	5,631 (100.0)
第2希望	452 (8.0)	987 (17.5)	787 (14.0)	969 (17.2)	512 (9.1)	529 (9.4)	434 (7.7)	147 (2.6)	302 (5.4)	302 (5.4)	5,631 (100.0)
計	729 (12.9)	2,288 (40.6)	1,356 (24.1)	1,875 (33.5)	1,688 (30.0)	1,282 (22.5)	1,030 (18.3)	369 (6.5)	499 (8.9)	43 (0.8)	5,631 (100.0)

上段: 回答者数(人) 下段: 回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る受験意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望している 729 人について、栄養学科を「受験したい」と回答したのは 103 人（14.1%）、「受験を検討する」と回答したのは 168 人（23.0%）であり、合計すると 271 人（37.1%）が栄養学科の受験に関心を示している。【表 11】

【表 11】 大学進学及び家政学関係への進学を希望する回答者の健康科学部栄養学

学を希望。

「区分 2」は栄養学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合に栄養学科へ入学を希望する者で、アンケート回答時点では受験について意思を決定していないが、受験し合格したら入学する可能性が高く、「区分 1」に次いで栄養学科に入学する可能性が高いと考える。

「推計 1」

80%が受験し、そのうち 100%が入学を希望。

「推計 2」「推計 3」

50%が受験し、そのうち 100%が入学を希望。

「区分 3」は栄養学科の受験を希望し、合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する者で、栄養学科を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性が高いと考える。

「推計 1」「推計 2」

100%が受験し、そのうち 50%が入学を希望。

「推計 3」

100%が受験し、そのうち 30%が入学を希望。

「区分 4」は栄養学科の受験を検討中であり、受験し合格した場合、併願先の結果によっては入学を希望する者で、栄養学科を第1希望以外に考えている可能性が高く、アンケート回答時点では受験について意思を決定していないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性があると考え。

「推計 1」

80%が受験し、そのうち 50%が入学を希望。

科受験意向

	1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不明	合計
大学進学・ 家政学関係 進学希望者	103 (14.1)	168 (23.0)	498 (59.8)	22 (3.0)	729 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科を「受験したい」と回答した103人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは41人(39.8%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは56人(54.4%)である。

また、大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科について「受験を検討する」と回答した168人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは23人(13.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは140人(83.3%)である。【表12】

【表12】大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

	1 入学したい	2 併願先の結果によっては入学したい	不明	合計
大学進学・ 家政学関係 進学希望者	41 (39.8)	56 (54.4)	6 (5.8)	103 (100.0)
	23 (13.7)	140 (83.3)	5 (3.0)	168 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る入学希望者>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは36人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは46人である。この「入学したい」と回答した36

「推計2」

50%が受験し、そのうち50%が入学を希望。

「推計3」

50%が受験し、そのうち30%が入学を希望。

人については、栄養学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した46人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは15人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは92人である。この「入学したい」と回答した15人については、アンケート回答時点において栄養学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した92人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、栄養学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性があると考えられる。【表13】

【表13】大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育学 科	4 教育学部 初等中等教 育学科	合計
大学進学・ 家政学関係 進学希望者	(北陸学院大学) 入学したい	36 (87.5)	3 (7.3)	2 (4.9)	0 (0.0)	41 (100.0)
かつ 健康科学部 受験したい	(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	46 (82.1)	7 (12.5)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100.0)
大学進学・ 家政学関係 進学希望者	(北陸学院大学) 入学したい	15 (65.2)	7 (30.4)	1 (4.3)	0 (0.0)	23 (100.0)
かつ 健康科学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい	92 (65.7)	28 (20.0)	10 (7.1)	10 (7.1)	140 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、アの令和3（2021）年8月～9月に実施した新学部設置に関する高校生アンケートの結果である。

⑨ 北陸学院高等学校への再アンケート調査結果イについて

本学の併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、令和4（2022）年6月に、再度新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3（2021）年9月実施の高校生アンケートの回答者（当時2年生）と同じ対象者である。前回の結果（当時2年生）と再調査の結果（現在3年生）を比較して示し、再調査結果を基に説明を行う。

再調査の回答者数（有効回答数）は324人であった。このうち、大学進学希望者は260人（80.2%）である。【表14】

【表14】高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門系大学含 む)	2 短期大学進学 (専門系短期大 学含む)	3 専門学校 進学	4 就 職	5 その他	不 明	合 計
2021(令和3) 年9月 (2年時)	258 (80.6%)	11 (3.4%)	40 (12.5%)	5 (1.6%)	5 (1.6%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
2022(令和4) 年6月 (3年時)	260 (80.2%)	5 (1.5%)	48 (14.8%)	6 (1.9%)	2 (0.6%)	3 (0.9%)	324 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野（第1希望、第2希望）

>

進学を希望する分野について、大学進学希望者260人のうち第1希望として「家政学関係」と回答したのは20人（7.7%）、第2希望として「家政学関係」と回答したのは19人（7.3%）であり、

合計すると 39 人 (15%) の大学進学希望者が「家政学関係」への進学を希望している。【表 15】

【表 15】 大学進学希望者の進学希望分野 (第 1 希望、第 2 希望)

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	不明	合計
			家政学関係	社会科学部	教育学部	人文科学部	理学・工学	保健衛生学	医学・歯学	芸術学関係	その他			
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学 希望者	第1希望	17 (6.6)	67 (26.0)	29 (11.2)	50 (19.4)	21 (8.1)	41 (15.9)	10 (3.9)	11 (4.3)	12 (4.7)	0 (0.0)		258 (100.0)
		第2希望	21 (8.1)	53 (20.5)	24 (9.2)	49 (19.0)	20 (8.0)	17 (6.6)	22 (8.5)	22 (8.5)	9 (3.5)	11 (4.3)		258 (100.0)
		計	38 (14.7)	120 (46.5)	53 (20.4)	99 (38.4)	41 (17.0)	58 (22.5)	32 (12.4)	33 (12.8)	18 (7.0)	11 (4.3)		258 (100.0)
2022(令和4)年 6月 (3年時)	大学進学 希望者	第1希望	29 (7.7)	89 (35.5)	27 (10.4)	52 (20.0)	29 (11.2)	39 (15.0)	7 (2.7)	7 (2.7)	8 (3.1)	2 (0.8)		260 (100.0)
		第2希望	18 (7.3)	84 (32.6)	21 (8.1)	45 (17.3)	12 (4.6)	20 (7.7)	16 (6.2)	17 (6.5)	9 (3.5)	37 (14.2)		260 (100.0)
		計	39 (15)	133 (51.1)	48 (18.5)	97 (37.3)	41 (15.8)	59 (22.7)	23 (9.4)	24 (9.2)	17 (6.6)	39 (15.0)		260 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る受験意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望している 39 人について、栄養学科を「受験したい」と回答したのは 15 人 (38.5%)、「受験を検討する」と回答したのは 5 人 (12.8%) であり、合計すると 20 人 (51.3%) が栄養学科の受験に関心を示している。【表 16】

【表 16】 大学進学及び家政学関係への進学を希望する回答者の健康科学部栄養学科受験意向

		1	2	3	不明	合計
		受験したい	受験を検討する	受験しない		
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学 家政学関係 進学希望者	10 (26.3)	18 (47.4)	8 (21.0)	2 (5.3)	38 (100.0)
2022(令和4)年 6月 (3年時)	大学進学 家政学関係 進学希望者	15 (38.5)	5 (12.8)	19 (48.7)	0 (0.0)	39 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科を「受験したい」と回答した 15 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 11 人 (73.3%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 4 人 (26.7%) である。

また、大学進学希望者で家政学関係へ

の進学を希望し、かつ栄養学科について「受験を検討する」と回答した5人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは1人(20.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは4人(80.0%)である。【表17】

【表17】大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1 入学したい	2 併願先の結果 によっては 入学したい	不 明	合 計
2021(令和3)年 9月 (2年時)	大学進学・ 家政学関係 進学希望者	(栄養学科) 受験したい	6 (60.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
		(栄養学科) 受験を検討する	7 (38.9)	11 (61.1)	0 (0.0)	18 (100.0)
2022(令和4)年 6月 (3年時)	大学進学・ 家政学関係 進学希望者	(栄養学科) 受験したい	11 (73.3)	4 (26.7)	0 (0.0)	15 (100.0)
		(栄養学科) 受験を検討する	1 (20.0)	4 (80.0)	0 (0.0)	5 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る入学希望者

>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは11人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは4人である。この「入学したい」と回答した11人については、栄養学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した4人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験について検討すると回答した回答者のう

ち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは1人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは4人である。この「入学したい」と回答した1人については、アンケート回答時点において栄養学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した4人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、栄養学科の受験についても意思決定をしていないが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性があると考えられる。【表18】

【表18】大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	2 社会学部 社会学科	3 教育学部 幼児教育 学科	4 教育学部 初等中等教 育学科	合計	
2021 (令和3)年 9月 (2年時)	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験したい	《北陸学院大学》 入学したい	5 (63.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
		併願先の結果によっては入 学したい	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験を検討する	《北陸学院大学》 入学したい	5 (71.4)	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
		併願先の結果によっては入 学したい	10 (90.9)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)
2022 (令和4)年 6月 (3年時)	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験したい	《北陸学院大学》 入学したい	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
		併願先の結果によっては入 学したい	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験を検討する	《北陸学院大学》 入学したい	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
		併願先の結果によっては入 学したい	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、Ⅰの本学併設校である、北陸学院高等学校の3年生に対し、再度高校生アンケートを実施した結果である。

⑩ オープンキャンパス参加者(健康科学部への参加者)へのアンケート調査

結果ウについて

令和4年(2022)年6月19日(日)に本学で開催した、オープンキャンパス参加者36人(健康科学部への参加者)に対し、新学部学科への入学意向を把握するために、高校生アンケートを実施した。なお、対象者はアで実施した、令和3(2021)年9月実施の回答者(当時2年生)と重複がないことと、現在3年生であることを確認し、集計を行った。

回答者数(有効回答数)は20人であった。このうち大学進学希望者は19人(95.0%)である。【表19】

【表19】 高校卒業後の希望進路

	1 大学進学 (専門職大学含む)	2 短期大学進学 (専門職短期大学含む)	3 専門学校 進学	4 就職	5 その他	不明	合計
2022(令和4)年6月 オープンキャンパス 参加者	19 (95.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)

注)上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<進学希望分野(第1希望、第2希望)>

>

進学を希望する分野について、大学進学希望者19人のうち第1希望として「家政学関係」と回答したのは15人(80.0%)、第2希望として「家政学関係」と回答したのは1人(5.0%)であり、合計すると16人(85.0%)の大学進学希望者が「家政学関係」への進学を希望している。【表20】

【表20】 大学進学希望者の進学希望分野(第1希望、第2希望)

		1 家政学 関係	2 社会科学 学関係	3 教育学・ 保育学 関係	4 人文科学 学関係	5 理学・工 学・農学 関係	6 保健衛生 学関係	7 医学・歯 学・薬学 関係	8 芸術学 関係	9 その他	不明	合計
2022 (令和4) 年6月 オープン キャンパ ス参加者	第1希望	15 (78.9)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	1 (5.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (100.0)
	第2希望	1 (5.3)	1 (5.3)	6 (31.6)	6 (31.6)	3 (15.8)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (100.0)
	計	16 (84.2)	1 (5.3)	7 (36.9)	7 (36.9)	4 (20.0)	1 (5.3)	1 (5.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (—)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る受験意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学

を希望している 16 人について、栄養学科を「受験したい」と回答したのは 12 人 (75.0%)、「受験を検討する」と回答したのは 4 人 (25.0%) であり、合計すると 16 人 (100%) が栄養学科の受験に関心を示している。【表 21】

【表 21】 大学進学及び家政学関係への進学を希望する回答者の健康科学部栄養学科受験意向

		1 受験したい	2 受験を検討する	3 受験しない	不 明	合 計
2022(令和4)年6月 オープンキャンパス 参加者	大学進学・ 家政学関係 進学希望者	12 (75.0)	4 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<北陸学院大学に係る入学意向>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科を「受験したい」と回答した 12 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 8 人 (66.7%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 4 人 (33.3%) である。

また、大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科について「受験を検討する」と回答した 4 人について、北陸学院大学を受験して合格した場合「入学したい」と回答したのは 1 人 (25.0%)、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは 3 人 (75.0%) である。【表 22】

【表 22】 大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者の北陸学院大学入学意向

			1	2	不 明	合 計
			入学したい	併願先の結果 によっては 入学したい		
2022(令和4)年 6月オープンキャン パス参加者	大学進学・ 家政学関係 進学希望者	(栄養学科) 受験したい	8 (66.7)	4 (33.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
		(栄養学科) 受験を検討する	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

<健康科学部栄養学科に係る入学希望者

>

大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験を希望する回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは8人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは4人である。この「入学したい」と回答した8人については、栄養学科への入学を第1希望に考えている可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した4人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性があり、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性が高いと考えられる。

また、大学進学希望者で家政学関係への進学を希望し、かつ栄養学科の受験について検討すると回答した回答者のうち、北陸学院大学を受験して合格した場合、栄養学科に「入学したい」と回答したのは1人、「併願先の結果によっては入学したい」と回答したのは3人である。この「入学したい」と回答した1人については、アンケート回答時点において栄養学科の受験について意思決定をしていないが、受験し合格したら入学する可能性が高いと考えられる。「併願先の結果によっては入学したい」と回答した3人については、栄養学科への入学を第1希望以外に考えている可能性が高く、栄養学科の受験についても意思決定をしていな

いが、受験する可能性はあり、受験し合格すれば、併願先の結果次第では栄養学科に入学する可能性があると考えられる。【表 23】

【表 23】 大学進学及び家政学関係への進学を希望し、かつ健康科学部栄養学科を受験したい又は受験を検討すると回答した回答者で、北陸学院大学に入学したい又は併願先の結果によっては入学したいと回答した回答者の入学希望学部学科

		1 健康科学部 栄養学科	合計
2022(令和4)年 6月 オープンキャンパス参加者	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験したい	(北陸学院大学) 入学したい 8 (100.0)	8 (100.0)
	大学進学・家政学関係 進学希望者かつ 健康科学部 受験を検討する	(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい 4 (100.0)	4 (100.0)
		(北陸学院大学) 入学したい 1 (100.0)	1 (100.0)
		(北陸学院大学) 併願先の結果によっては 入学したい 3 (100.0)	3 (100.0)

上段:回答者数(人) 下段:回答割合(%)

以上が、ウのオープンキャンパス参加者に対して、高校生アンケートを実施した結果である。

⑪ 過去3年間における人間総合学部及び短期大学部食物栄養学科の入学者の進路決定時期

以上のアンケート調査ア、イ、ウの結果を踏まえ、本学部の入学希望者について検討する。はじめに、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部の入学者の過去3年間における結果が【表 24】である。また、短期大学部食物栄養学科の過去3年間における結果が【表 25】である。

【表 24】 人間総合学部入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期

なお、本学が毎年新入生に対して行っている「新入生アンケート」における本学の志望順位と本学への受験決定時期について、既設の人間総合学部の入学者の過去3年間における結果が【表 10】である。

【表10】 人間総合学部入学者の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期。
□□□令和元(2019)～令和3(2021)「新入生アンケート」結果より抜粋。

アンケート実施年度		第1志望			第1志望以外			合計
		1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人	8	67	7	0	68	6	156
	%	5.1	42.9	4.5	0.0	43.6	3.8	100.0
令和2 (2020)	人	11	74	3	0	81	1	170
	%	6.5	43.5	1.8	0.0	47.6	0.6	100.0
令和3 (2021)	人	18	72	4	0	28	2	124
	%	14.5	58.1	3.2	0.0	22.6	1.6	100.0
総計	人	37	213	14	0	177	9	450
	%	8.2	47.3	3.1	0.0	39.3	2.0	100.0
		58.7			41.3			

人間総合学部入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.7%、第1志望以外としていたのは41.3%であり、約6割は第1志望、約4割は第1位志望以外となっている。

アンケート実施年度	第1志望			第1志望以外			合計
	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人 8	67	7	0	68	6	156
	% 5.1	42.9	4.5	0.0	43.6	3.8	100.0
令和2 (2020)	人 11	74	3	0	81	1	170
	% 6.5	43.5	1.8	0.0	47.6	0.6	100.0
令和3 (2021)	人 18	72	4	0	28	2	124
	% 14.5	58.1	3.2	0.0	22.6	1.6	100.0
総計	人 37	213	14	0	177	9	450
	% 8.2	47.3	3.1	0.0	39.3	2.0	100.0
		58.7			41.3		

人間総合学部入学者のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で58.7%、第1志望以外としていたのは41.3%であり、約6割は第1志望、約4割は第1志望以外となっている。

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して令和3（2021）年9月に実施したが、高校2年生の9月時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では8.2%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

【表25】短期大学部食物栄養学科の「第1志望」「第1志望以外」の進路決定時期

アンケート実施年度	第1志望			第1志望以外			合計
	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	1年前半～ 2年中頃	2年後半～ 3年後半	その他	
令和元 (2019)	人 7	46	2	0	10	1	66
	% 10.6	69.7	3.0	0.0	15.2	1.5	100.0
令和2 (2020)	人 11	74	3	0	81	1	170
	% 6.5	43.5	1.8	0.0	47.6	0.6	100.0
令和3 (2021)	人 18	72	4	0	28	2	124
	% 14.5	58.1	3.2	0.0	22.6	1.6	100.0
総計	人 36	192	9	0	119	4	360
	% 10.0	53.3	2.5	0.0	33.1	1.1	100.0
		65.8			34.2		

短期大学部食物栄養学科のうち、本学を第1志望としていたのは過去3年間平均で65.8%、第1志望以外としていたのは34.2%であった。進路決定時期は、高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では10.0%、第1志望以外の学生では0.0%であり、人間総合学部同様に、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の

また、今回の進学意向調査は高校2年生に対して令和3年9月に実施したが、高校2年生の9月時点、つまり高校2年生の中頃の時点で本学への受験を決めていたのは、本学第1志望の学生では8.2%、第1志望以外の学生では0.0%であり、大半の学生は高校2年生の後半以降に本学の受験を決めている。

こうした状況を踏まえ、入学希望者の試算では、「受験を検討する」と回答した回答者については80%もしくは50%が受験するとし、「併願先の結果によっては入学を希望する」と回答した回答者については50%もしくは30%が本学への入学を希望すると想定した。

【表11】各区分における入学希望者数

アンケート結果	推計1	入学希望者数 ^(注)
区分1	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	36人×1.0×1.0⇒36人
区分2	80%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×0.8×1.0⇒12人
区分3	100%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	46人×1.0×0.5⇒23人
区分4	80%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	32人×0.8×0.5⇒13人
合 計		107人
アンケート結果	推計2	入学希望者数
区分1	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	36人×1.0×1.0⇒36人
区分2	50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×0.5×1.0⇒7人
区分3	100%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	46人×1.0×0.5⇒23人
区分4	50%が受験し、そのうち50%が入学を希望。	32人×0.5×0.5⇒8人
合 計		69人
アンケート結果	推計3	入学希望者数
区分1	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	36人×1.0×1.0⇒36人
区分2	50%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	15人×0.5×1.0⇒7人
区分3	100%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	46人×1.0×0.3⇒13人
区分4	50%が受験し、そのうち30%が入学を希望。	32人×0.5×0.3⇒5人
合 計		69人

(注)1) 繰上切り捨て。

上記、「【表11】各区分における入学希望者数」の結果、本学の健康科学部栄養学科への入学希望者数は入学定員65人を上回る69～107人となり、石川県をはじめとする周辺地域に所在する一部の高等学校及びキリスト教学校の2年生に限定した調査結果においても、健康科学部の栄養学科に対する高い進学意向が確認できたことから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

受験を決めている。

⑫ 高校生アンケート調査結果ア、
イ、ウからの入学希望者検討

アンケート集計結果の区分を、区分1～区分4とした。【表26】アの結果は下記の通りとなる。区分1及び区分2は、アンケート問4の設問で、健康科学部栄養学科を「受験したい」と回答した者であり、本学科への受験意向は強い層と考える。【表26】

【表26】高校生アンケート 区分表

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「家政学」を選択 問5(2) 「健康科学部栄養学科に入学希望」を選択	ア 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	38人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	48人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	15人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	92人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：健康科学部栄養学科の受験意向、問5(1)：合格の場合の入学意向

イの北陸学院高等学校の区分1～区分4について、2021（令和3）年の調査結果と2022（令和4）年の再調査結果を比較した表が【表27】である。回答対象者が重複するため、入学希望者検討には、ア（北陸学院高校集計数）とイの調査結果との、増減回答数を使用する。

【表27】北陸学院高等学校3年生への再アンケート結果回答の比較と増減回答数

区分	問2 「大学進学」を選択 問3 「家政学」を選択 問5(2) 「健康科学部栄養学科に入学希望」を選択	ア2021年9月 (2年時) 回答数	イ2022年6月 (3年時) 回答数	増減(イ-ア) 回答数
区分1	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	5人	11人	+6人
区分2	問4 「受験したい」を選択 問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	3人	4人	+1人
区分3	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「入学したい」を選択	5人	1人	-4人
区分4	問4 「受験を検討する」を選択 問5(1) 「併願先の結果によっては入学したい」を選択	10人	4人	-6人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：健康科学部栄養学科の受験意向、問5(1)：合格の場合の入学意向

【表24】【表25】で示したとおり、本学への入学者層は、高校2年後半から3年後半に進路決定する割合が多く、【表

27】の北陸学院高等学校の結果では、区分1及び区分2の「受験したい」の回答数が、8名から15名に増えた。また、区分1の健康科学部栄養学科への受験を希望し、かつ入学希望である回答数が5名から11名に増えた。逆に、区分3及び区分4の、弱い受験意向層及び入学意向層の回答数は、前回より減った結果となり、より明確に進路決定したことが窺える。

ウの本学オープンキャンパス参加者（健康科学部参加）への、アンケート結果でも、3年生の6月時点での参加は、受験意向、入学意向とも強い層が参加していることが窺える。

最終的な回答数を算出するにあたり、アの調査結果より、イの北陸学院高等学校の重複を避けるため、【表27】の増減回答数と、ウのオープンキャンパス参加者の回答数を含め、入学希望者数を試算する根拠とする、最終アンケート回答数を【表28】に示す。

【表28】高校生アンケート（最終）区分表

区分	問2 問3 問5(2)	ア 2021年9月～9月 回答数	イ 北陸学院高等学校アンケート (増減) 回答数	ウ 2022年6月オープンキャンパス参加者回答数	最終 回答数
区分1	問4 問5(1)	36人	+6人	8人	50人
区分2	問4 問5(1)	46人	+1人	4人	51人
区分3	問4 問5(1)	15人	-4人	1人	12人
区分4	問4 問5(1)	82人	-6人	3人	80人

注) 問2：高校卒業後の進路、問3：進学希望分野、問5(2)：入学希望の学科
問4：健康科学部栄養学科の受験意向、問5(1)：合格の場合の入学意向

⑬ 入学希望者数の推計

入学希望者数を試算するうえで、この4つの各区分をまず、2つのパターンに分けて考える。パターン1は、区分1及び区分2の「受験したい」と回答した、受験意向が強い層とし、パターン2は区分3及び区分4の「受験を検討する」と

回答した、受験意向が弱い層とする。

それぞれのパターンには、「入学したい」と回答した入学意向が強い層と、「併願先の結果によっては入学したい」と回答した入学意向が弱い層がある。この、入学意向の違いを踏まえ入学希望者を試算するにあたり、パターン1では、本学の過去5年間の入学選抜試験での歩留率を根拠とし、試算を行う。なお、推計では区分1は、専願選抜の歩留率を、区分2は、併願選抜の歩留率を用いる。歩留率は、本学の人間総合学部の割合を、推計1とする。【表29】健康科学部栄養学科の基礎となる既設の短学部食物栄養学科の割合を、推計2とする。【表30】

【表29】過去5年間の人間総合学部入学選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

入学年度		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)
2017 (H29)	専願選抜 合計	49	49	49	49	100.0
	併願選抜 合計	266	264	247	83	33.6
2018 (H30)	専願選抜 合計	84	84	84	84	100.0
	併願選抜 合計	241	239	224	75	33.5
2019 (H31)	専願選抜 合計	55	55	55	55	100.0
	併願選抜 合計	316	312	297	101	34.0
2020 (R2)	専願選抜 合計	65	65	65	65	100.0
	併願選抜 合計	329	326	297	107	36.0
2021 (R3)	専願選抜 合計	87	87	86	86	100.0
	併願選抜 合計	319	307	237	51	21.5
総計	専願選抜 合計	340	340	339	339	100.0
	併願選抜 合計	1471	1448	1302	417	32.0

【表30】過去5年間の短期学部食物栄養学科入学者選抜（専願・併願）別入学志願状況及び歩留率

入学年度		志願者 (人)	受験者 (人)	合格者 (人)	入学者 (人)	歩留率(%)
2017 (H29)	専願選抜 合計	51	51	51	51	100.0
	併願選抜 合計	60	58	57	24	42.1
2018 (H30)	専願選抜 合計	49	49	49	49	100.0
	併願選抜 合計	35	34	34	13	38.2
2019 (H31)	専願選抜 合計	56	56	56	56	100.0
	併願選抜 合計	28	27	27	11	40.7
2020 (R2)	専願選抜 合計	46	45	45	45	100.0
	併願選抜 合計	45	45	45	16	35.6
2021 (R3)	専願選抜 合計	41	41	41	41	100.0
	併願選抜 合計	30	30	31	9	29.0
総計	専願選抜 合計	243	242	242	242	100.0
	併願選抜 合計	198	194	194	73	37.6

※ 専願選抜は、総合型選抜専願制、学校推薦型選抜指定校制・公募制の計。

※ 併願選抜は、総合型選抜併願制、

一般選抜、大学入学共通テスト利用制、
社会人選抜の計。

パターン1の推計の根拠を以下に示
す。推計1は、人間総合学部の歩留率の
5年平均（専願合計100%、併願合計
32.0%）【表29】を、推計2は、短期大学
部食物栄養学科の歩留率の5年平均（専
願合計100%、併願合計37.6%）【表30】
を用いる。

「区分1」は栄養学科の受験及び、入学
を強く志望しており、専願選抜受験層と
仮定した。

- ・ 「推計1」100%が受験し、そのうち
100%が入学を希望。
- ・ 「推計2」100%が受験し、そのうち
100%が入学を希望。

「区分2」は栄養学科の受験を希望し、
入学は検討中であり、併願選抜受験層と
仮定した。

- ・ 「推計1」100%が受験し、そのうち
32.0%が入学を希望。
- ・ 「推計2」100%が受験し、そのうち
37.6%が入学を希望。

【表31】区分1及び区分2における入学
希望者数

アンケート結果		推計1	入学希望者数 ^(注1)
区分1	50人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	50人×1.0×1.0⇒50人
区分2	51人	100%が受験し、そのうち32.0%が入学を希望。	51人×0.32×1.0⇒16人
-		合計	66人
アンケート結果		推計2	入学希望者数
区分1	50人	100%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	50人×1.0×1.0⇒50人
区分2	51人	100%が受験し、そのうち37.6%が入学を希望。	51人×0.376×1.0⇒19人
-		合計	69人

(注1) 種数切り捨て。

上記、「【表31】区分1及び区分2にお

ける入学希望者数」の結果、本学の健康科学部栄養学科へ強い受験意向層の入学希望者数は、入学定員 65 人を満たす 66 人～69 人となった。

次に、パターン 2 として、【表 28】の区分 3 及び区分 4 の「受験を検討する」と回答した、受験意向が弱い層の推計を検討する。この、受験意向が弱い層からの受験者数を試算するにあたり、本学の過去 5 年間のオープンキャンパス参加者からの受験者割合を根拠とし、試算を行う。【表 32】なお、受験者数、入学者数は、人間総合学部及び、短期大学部の合算である。

【表 32】過去 5 年間のオープンキャンパス参加者（実数）（高校 1～3 年のいずれかで参加）の受験・入学率

高校卒業年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値
オープンキャンパス参加者（人）	578	631	543	439	356	509.4
うち受験者（人）	200	225	217	159	147	189.6
専願選抜（人）	149	132	128	139	119	133.4
併願選抜（人）	51	93	89	20	28	56.2
オープンキャンパス参加者の受験率	34.6%	35.7%	40.0%	36.2%	41.3%	37.2%
専願選抜	25.8%	20.9%	23.6%	31.7%	33.4%	26.2%
併願選抜	8.8%	14.7%	16.4%	4.6%	7.9%	11.0%
入学者（人）	180	191	182	155	133	168.2
オープンキャンパス参加者の入学率	31.1%	30.3%	33.5%	35.3%	37.4%	33.0%

パターン 2 の推計の根拠を以下に示す。推計 1、推計 2 とともに、「受験を検討する」と回答した層を、本学のオープンキャンパス参加者に仮定し、【表 32】過去 5 年間のオープンキャンパス参加者（高校 1～3 年のいずれかで参加）からの併願選抜平均受験率である、11.0%を用いる。なお、オープンキャンパス参加者は希望学部学科が変化する場合や、未定とする者も多いため、推計 1、推計 2 とともに、同じ割合を使用する。「受験を検討する」と回答した回答者のうち、11.0%が本学を受験するとする。

「区分3」は栄養学科の受験は検討中であり、合格した場合は入学を希望している。

・ 「推計1」11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

・ 「推計2」11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。

「区分4」は栄養学科の受験は検討中であり、入学も検討中である。入学志望度はパターン1同様に、併願選抜受験層と仮定した。

・ 「推計1」11.0%が受験し、そのうち32.0%が入学を希望。

・ 「推計2」11.0%が受験し、そのうち37.6%が入学を希望。

【表33】 区分3及び区分4における入学希望者数

アンケート結果		推計1	入学希望者数 ⁽¹⁾
区分3	12人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	12人×0.11×1.0⇒1人
区分4	59人	11.0%が受験し、そのうち32.0%が入学を希望。	59人×0.11×0.32⇒3人
—		合計	4人
アンケート結果		推計2	入学希望者数
区分3	12人	11.0%が受験し、そのうち100%が入学を希望。	12人×0.11×1.0⇒1人
区分4	59人	11.0%が受験し、そのうち37.6%が入学を希望。	59人×0.11×0.376⇒3人
—		合計	4人

(注1) 小数切り捨て。

上記、「【表33】 区分3及び区分4における入学希望者数」の結果、本学の健康科学部栄養学科へ弱い受験意向層の入学希望者数は、入学定員65人の6%である4人となった。

⑭ 入学希望者検討のまとめ

「受験したい」と回答した受験意向が強い層の推計であるパターン1で入学希望者数を試算した結果、定員の65名を満たす入学希望者が見込まれる結果となっ

た。

パターン2の「受験を検討する」と回答した受験意向が弱い層については、本学を実際に受験するかどうか定かではないことから、入学希望者として考えるには不確実な層である。しかし、本学人間総合学部の在学学生及び短期大学部食物栄養学科の在学学生においては、高校2年生の中頃に本学を受験することを決めていたのはごくわずかであることから【表24】【表25】、アンケート回答時点（高校2年生の8月～9月）では「受験を検討する」と回答した層の中にも、本学を受験する者が含まれる可能性は十分にあると考えられる。本学の過去のオープンキャンパス参加者を「受験を検討する」と回答した層と考え、その中から本学に併願選抜で入学した者の割合（11.0%）をもとに試算した結果では、4人の入学希望者がいるという結果であった。この4人が実際に入学すると想定することはできないが、この中から実際に入学する者が出てくる可能性はあると考えられる。

受験意向が弱い層は101人おり【表28】、この中にも入学希望者がいる可能性はある。北陸学院高校の再調査結果を見ても、2021（令和3）年8月～9月のアンケート調査時点より2022（令和4）年6月の再調査時点で受験希望者は増え、入学希望者も増えていることから、更なる広報活動の強化を図り、受験意向が弱い層からの受験希望者を増やし、入学希望者の確保に努めていきたい。

また、本学の入学者は、過去5年間平均で、83.5%は、所在地である石川県内からの入学者である。【表2】高校生アンケートにおける石川県内の回答者数は、5,087人であったが、石川県県民文化局県

民交流課統計情報室が公開している、人口労働グループデータ「石川県の年齢別推計人口」によると、アンケート対象であった、2021（令和3）年度高等学校2年生の年齢人口は、10,132人であることから、高校生アンケートは、石川県内高校2年生の約半数に実施したことになる。このため、高校生アンケートに回答していない者の中からも、本学部に入学を希望する者がいる可能性はあることから、広報活動の強化を通じて入学希望者の掘り起こしを図り、定員の充足につなげていきたい。

（3）学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学校運営に係る財政的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の視点を踏まえるとともに、競合が想定される類似の学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育活動収支差額や経常収支差額を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費や教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。【表 34】

【表 34】 学科別学生納付金一覧

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	健康科学部栄養学科	200,000	1,280,000	1,480,000	5,320,000
金沢学院大学	栄養学部栄養学科	200,000	1,280,000	1,480,000	5,320,000
仁愛大学	人間生活学部健康栄養学科	250,000	960,000	1,210,000	4,840,000
新潟医療福祉大学	健康科学部健康栄養学科	350,000	1,500,000	1,850,000	6,350,000

(略)

II 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的（概要）

(略)

（3）学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学校運営に係る財政的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の視点を踏まえるとともに、競合が想定される類似の学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育活動収支差額や経常収支差額を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費や教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。【表 12】

【表 12】 学科別学生納付金一覧

大学名	学部学科名	入学金	授業料等	初年度合計	4年間累計
北陸学院大学	健康科学部栄養学科	200,000	1,280,000	1,480,000	5,320,000
金沢学院大学	栄養学部栄養学科	200,000	1,280,000	1,480,000	5,320,000
仁愛大学	人間生活学部健康栄養学科	250,000	960,000	1,210,000	4,840,000
新潟医療福祉大学	健康科学部健康栄養学科	350,000	1,500,000	1,850,000	6,350,000

(略)

II 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的その後の教育研究上の目的（概要）

(略)

2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(略)

（1）最近3年間の求人件数の状況

健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近3年間の求人件数の実績は、平成30(2018)年度の就職希望者63人に対して求人件数737件で求人倍率は11.7倍、令和元(2019)年度は就職希望者55人に対して求人件数798件で求人倍率は14.5倍、令和2(2020)

2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(略)

(1) 最近3年間の求人件数の状況

健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近3年間の求人件数の実績は、平成30(2018)年度の就職希望者63人に対して求人件数737件で求人倍率は11.7倍、令和元(2019)年度は就職希望者55人に対して求人件数798件で求人倍率は14.5倍、令和2(2020)年度は就職希望者55人に対して求人件数711件で求人倍率は12.9倍と高い求人倍率となっている。【表35】

【表35】食物栄養学科 最近3年間の求人状況等

求人年度		平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
就職希望者数		63	55	55	58
栄養士	企業数(社)	69	78	53	67
	募集人数(人)	138	155	120	138
栄養士以外の求人	企業数(社)	353	264	204	274
	募集人数(人)	599	643	591	611
合計	企業数(社)	422	342	257	340
	募集人数(人)	737	798	711	749
求人倍率(倍)		11.7	14.5	12.9	13.0

(2) 最近3年間の就職者数の状況

健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近3年間の就職内定率は、平成30(2018)年度は100%(就職内定者数63人/就職希望者数63人)、令和元(2019)年度は100%(就職内定者数55人/就職希望者数55人)、令和2(2020)年度は100%(就職内定者数55人/就職希望者数55人)と高い就職内定率を示している。【表36】

【表36】食物栄養学科 最近3年間の就職実績

年度は就職希望者55人に対して求人件数711件で求人倍率は12.9倍と高い求人倍率となっている。【表13】

【表13】食物栄養学科 最近3年間の求人状況等

求人年度		平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
就職希望者数		63	55	55	58
栄養士	企業数(社)	69	78	53	67
	募集人数(人)	138	155	120	138
栄養士以外の求人	企業数(社)	353	264	204	274
	募集人数(人)	599	643	591	611
合計	企業数(社)	422	342	257	340
	募集人数(人)	737	798	711	749
求人倍率(倍)		11.7	14.5	12.9	13.0

(2) 最近3年間の就職者数の状況

健康科学部の栄養学科の基礎となる既設の短期大学部の食物栄養学科の最近3年間の就職内定率は、平成30(2018)年度は100%(就職内定者数63人/就職希望者数63人)、令和元(2019)年度は100%(就職内定者数55人/就職希望者数55人)、令和2(2020)年度は100%(就職内定者数55人/就職希望者数55人)と高い就職内定率を示している。【表14】

【表14】食物栄養学科 最近3年間の就職実績

卒業年度		平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業生数(人)		67	58	57	61
進学者(人)		1	0	1	1
就職希望者数(人)		63	55	55	58
就職内定者数(人)		63	55	55	58
就職内定率(%)		100.0	100.0	100.0	100.0
卒業生に対する就職内定率(%)		95.5	94.8	98.2	96.2

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

栄養学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2(2020)年度の卒業生では、金沢学院大学栄養学部栄養学科(入学定員80人、金沢市内)で100%、

卒業年度	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	平均
卒業生数 (人)	67	58	57	61
進学者 (人)	1	0	1	1
就職希望者数 (人)	63	55	55	58
就職内定者数 (人)	63	55	55	58
就職内定率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
卒業生に対する 就職内定率※	95.5	94.8	98.2	96.2

※進学者除く

(3) 想定される競合大学の就職者数の状況

栄養学科と同分野で類似の教育内容を有する大学の学部・学科で、かつ競合が想定される大学の学部・学科における卒業生の就職内定状況は、令和2(2020)年度の卒業生では、金沢学院大学栄養学部栄養学科(入学定員80人、金沢市内)で100%、仁愛大学人間生活学部健康栄養学科(入学定員75人、越前市内)で100%、新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科(入学定員40人、新潟市内)で100%である。すべての大学で就職内定率100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。【表37】

【表37】 想定される競合大学の就職状況

金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科 (平成28(2016)年度開設)

◆内定率等

	卒業生数	就職者数	進学者数	内定率%
令和元(2019)年度 卒業生	75	70	3	97.2
令和2(2020)年度 卒業生	63	63	0	100.0

仁愛大学人間生活学部健康栄養学科

◆就職率等

	卒業生数	就職希望者	就職者	就職率%
平成30(2018)年度 卒業生	72	70	70	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	61	60	60	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	72	72	72	100.0

新潟医療福祉大学

◆管理栄養士・栄養士・栄養教諭の求人数と求人数

	求人数	求人数
令和2(2020)年度	560	296

◆就職内定率

	内定率%
令和2(2020)年度 卒業生	100

(略)

仁愛大学人間生活学部健康栄養学科(入学定員75人、越前市内)で100%、新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科(入学定員40人、新潟市内)で100%である。すべての大学で就職内定率100%であり、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。【表15】

【表15】 想定される競合大学の就職状況

金沢学院大学人間健康学部健康栄養学科 (平成28(2016)年度開設)

◆内定率等

	卒業生数	就職者数	進学者数	内定率%
令和元(2019)年度 卒業生	75	70	3	97.2
令和2(2020)年度 卒業生	63	63	0	100.0

仁愛大学人間生活学部健康栄養学科

◆就職率等

	卒業生数	就職希望者	就職者	就職率%
平成30(2018)年度 卒業生	72	70	70	100.0
令和元(2019)年度 卒業生	61	60	60	100.0
令和2(2020)年度 卒業生	72	72	72	100.0

新潟医療福祉大学

◆管理栄養士・栄養士・栄養教諭の求人数と求人数

	求人数	求人数
令和2(2020)年度	560	296

◆就職内定率

	内定率%
令和2(2020)年度 卒業生	100

(略)